

詰将棋全国大会レポート（8）

平成4年度全日本詰将棋連盟全国大会
（東北支部結成記念全国詰将棋大会）

1992年5月

青森県百石町 百石町社会福祉センターにて
参加者 35名

詰将棋パラダイス 1992年4, 6月号より

平成4年度

全日本詰将棋連盟全国大会

既に報じられていることで、周知の

こととは思いますが、来る5月2日、3日の両日、青森県百石町において、平成4年度の詰将棋全国大会が開催されます。その詳細についてこのほどまとまりましたので、お知らせいたします。

1, 日程、時程、会場等

5月2日 午後6時より割烹「すみれ」にて前夜祭

会費 3000円

宿泊については左記へお申し込み下さい。

青森県上北郡百石町中央町 吉田メ
リヤス百石店内 中戸としひろ

☎0178-52-2268

5月3日

(a)全日本詰将棋連盟 東北支部総会

午前10時～11時

(b)開会行事

午後0時～1時

(c)大いなる発言(参加者自己紹介)

午後1時～2時

(d)看寿賞表彰式

午後2時～2時30分

(e)アトラクション(詰将棋解答による懸賞、詰将棋関係のクイズによる懸賞)

午後2時30分～

会場は「百石町社会福祉センター」

なおこの日は、併催行事として、同

所で第18期北奥王将戦を行います。

2, 交通手段等

東北本線・八戸駅もしくは三沢駅下車、そこからバス等で百石町まで行く方法は、地元の方以外には分かりにくいので、必ず前もってハガキで連絡なさるか、下車した際、電話で前記中戸氏までにご連絡下さい。なお、空路を利用して、三沢空港に到着される方も同様にお願ひします。

なお、アトラクション等の準備の都合上、詰将棋大会への参加人数をできるだけ正確に知りたいと思っておりますので、ハガキで、連絡先(貴所住所・電話番号)、到着の方法および時刻を併記のうえ、参加の旨を左記へ4月26日までにお知らせ下さるとさいわい입니다。(電話でもかまいません)もちろん、当日連絡なしの参加の方も、大歓迎いたします。

〒020 盛岡市桜台三丁目13の1

佐々木聡

☎0196-67-2684

会合案内

平成4年度全日本詰将棋連盟

全国大会

5月3日、青森県百石町で

報告 柳原裕司



右から伊藤果六段、大橋健司氏、水上仁氏、関半治氏



将棋の町、百石

平成4年の全日本詰将棋連盟全国大会が5月3日、青森県百石町で行われた。

青森での全国大会に、えっ？と思われる人もいるだろうが、百石町は「将棋の町」として全国的に知られているところだ。昭和61年、将棋を核として町の活性化をはかるべく開かれた「第一回将棋祭り」が最初。自治省から予算を獲得して、町おこしの五カ年計画をスタートさせた。その中心人物となったのが、将棋天国社の中戸としひろ氏である。

中戸氏は私費を投じて、平成元年に「大山将棋記念館」をオープンさせた。この御殿は同町上明堂の二階建て雑居ビルの二階部分。大山名人が少年時代に愛用した駒、著作物などを始め、将棋の資料が数多く展示されている。

参加者は次の35人（隣の北奥王将戦

参加者が何人か顔を出されたが、ここでは省略する）。

〔青森〕荒谷光一、岩谷良雄、相馬慎一、中戸俊洋、安田昭春

〔岩手〕桑島孝之、金成憲雄、佐々木聡、原田章雄、三船勝男

〔宮城〕山名厚〔福島〕南倫夫

〔埼玉〕橋本孝治、湯川恵子〔東京〕伊藤果、大橋健司、門脇芳雄、金子清志、嵩明、森田正司

〔神奈川〕飯尾晃、馬話恒司、江口恭一、森敏宏、柳田明

〔愛知〕関半治〔大阪〕明石六郎、高坂研、弘光弘、水上仁、柳原裕司

〔奈良〕岡田敏

〔島根〕清水正彦、高見秀夫

〔山口〕山本善章

人口一万人の田舎町にこれだけ集まった。中国地方から来られた3人には頭が下がる。

平成3年度 看寿賞決定!

東北支部結成

山本氏は、先頃、将棋世界の7手詰コンテストで10万円を獲得したばかり。「その10万円を旅費に当てた訳ですね?」の問いに「全くその通りです」。賞金の使い道が深い。

高見氏は全国大会皆勤。今回は棋友の清水氏と一緒に18時間かけて到着!これは半端じゃない。お疲れ様。

中編賞・大橋健司作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						香			二
				と	?	歩	?		三
				香	香				四
				桂	王				五
				馬	?		銀		六
								龍	七
									八
									九

持駒 銀桂

短編賞奨励賞・水上 仁作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						皇			三
						王			四
						?	王		五
						飛			六
									七
									八
									九

持駒 飛角金

さて、今回は東北支部結成記念大会ということで、開会前に総会が開かれ、支部長に荒谷光一氏、事務局長に佐々木聡氏が選出された。荒谷氏は「詰バラ会員を今の二倍にしたい」と力強く抱負を語った。

大会のメインは看寿賞表彰式。中編賞は大橋健司氏、短編賞奨励賞は水上仁氏が受賞。岡田敏全詰連会長から表彰状と賞金が渡され、受賞作品の解説

と受賞者のインタビューが行われた。詳しい選考経過は来月号に発表される。アトラクションは「握り詰」の競作だ。前夜祭で大山名人の両手によって握られた駒は、玉飛角金2銀3香2歩8の18枚! 世話人の佐々木氏が「少ないよりは多い方がいい」という意向で、あえて両手でお願ひしたらしい。いかに中編作家らしい発想だ。一部から「多過ぎるのでは」とクレームが

ついたが、いかなる使用駒でも作ってしまうのが詰将棋作家なのである。

集まったのが13作。投票の結果、高坂研・相馬慎一両君の合作が1位に選ばれた。実質30分ぐらいで完成させたとか。趣向で歩8枚をうまく消化している。

最高に面白かったのが、詰工房出題による「詰将棋イントロクイズ」。詰手順を言って作者名を当てる、というも

懸賞 全国大会詰将棋

大会当日に懸賞出題された若島正作(21手詰、創棋会提供)と、握り詰競作で1位になった高坂研・相馬慎一両君合作(55手詰)を誌上でも懸賞出題いたします。なお、岡田敏氏作「百石」のあぶり出しは今月号「オーイ出番だよ!」で出題しています。

〔締切〕6月末日消印

〔呈賞〕5名

① 高坂研・相馬慎一合作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
金									一
		銀							二
		銀	香						三
		銀							四
金		王							五
									六
留			龍						七
									八
									九

持駒 香歩8

のだ。例題で「81」と言った瞬間、数人が手を挙げた。これはおなじみ伊藤看寿の煙話。「37馬、28銀合」なら新ヶ江幸弘、「27角、同馬、99飛」なら山本民雄、といったあんばいだ。「どうして分かつちやうわけー」と、湯川恵子さんは開いた口が塞がらない。まあ、ツメキストには常識問題なのである。参加者は少なめだったが、東北支部結成、看寿賞表彰式、と意義のある大

② 若島 正作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					曼				一
					王	角			二
			馬	桂			銀		三
							曼		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香

会だった。また、前夜祭やアトラクションなど非常に楽しかった。中戸氏をはじめ、運営に当たられた皆さんに厚くお礼申し上げます。なお、来年は三重県四日市市で7月に開催の予定。